

## マナスル(Manaslu, Japan, 1957-)

マナスルは国産のストーブである。現在もなお生産を続けていて、世界的に見ても貴重な存在のブランドである。

マナスルはヒマラヤの高峰(8156m、標高では世界で7番目)の名前であり、全部で14座ある8000m峰の中で日本隊が唯一初登頂(1956年、昭和31年)した山である。当時この快挙によって日本国内では一大登山ブームが巻き起こった。マナスル・

マナスルは当初、飯塚運動具製造(株)の製品だった。飯塚運動具製造はホープ(HOPE)のブランドで登山用品やスキー用品を販売していたのでマナスル・ストーブもホープ・マナスルというブランドで販売された。飯塚運動具製造は、その後1965年頃社名をホープ(株)に変更した。

ホープはストーブの他にコッヘル、背負子(アイガーという商品名が有名だった)、ピッケル、クライミング・ハーネス等も手掛け、エバニューやトップと並んで有力な登山用品メーカーだったが1980(昭和55)年に解散となってしまった。

現在マナスル・ストーブは灯油燃料のモデル96、121、126及びガソリン燃料のモデル160が東京にある(株)吉川製作所で製造されている。販売代理店はスター商事(株)が行っていて、各登山用品店で購入することができる。

### 名料理長はだれ。

安全弁のついた灯油専用ストーブがマナスル126と121。これまでの経験とカンにたよったポンピングでは、どうしても内圧の上り過ぎによる異常燃焼が起りがちでした。そこで、いろいろ実験してみると、内圧が3.0~4.0kg/cm<sup>2</sup>を越

**MANASLU**



○マナスル126 ¥8,800  
灯油専用 タンク容量/約1.0ℓ 燃焼時間/約4時間  
安全弁付 重量/約1.0kg  
金属製ケース付

またマナスルシリーズの白ガソリン専用は2機種。

300は自己噴射の燃料で余熱がてき、簡単で早く、点火後の炎はすみやかに最良の燃焼状態となります。



○マナスル300 ¥7,500  
白ガソリン専用 タンク容量/約0.3ℓ 燃焼時間/約2時間  
安全弁付 重量/約0.75kg  
プラスチック製ケース付

○マナスル160 ¥8,800  
白ガソリン専用 タンク容量/約0.16ℓ 燃焼時間/約50分  
重量/約0.14kg ミニポンプ付

●ミニポンプ ¥1,200

# HOPE

### 乗せるだけでテントのなかは、ホカホカ。

ストーブの対流熱を放射熱に変えるコンパクトなヒーターです。あなたが、いま使っているキャンピング・ストーブ(ただし五徳が三本式のもの)に乗せるだけでいいのです。テントの床部もよく暖まり、テントのなか全体をやわらかく暖めてくれます。

ところが普通 キャンピング・ストーブをそのまま燃やすと、熱はテントの上部にばかりたまり、床部の方はなかなか暖まらないのです。そのため顔ばかりホカホカして、あんまり気持ちのよいものではないですね。そのうえ、長時間テントのなかで燃やし続けると、有害な酸化炭素の濃度が高くなって、人体に悪い影響を与えます。

そこで、快適なテント生活のために、岳人の要望に応じて開発されたものです。

テント内を暖かく、また衣類の乾燥にも役立つヒーターを、キャンピング・ストーブのよきアシスタントとしてご利用ください。



○ヒーター ¥1,500  
C(本体)ステンレス製(網・コイル部)クロームメッキ  
サイズ/120mm×35mm ケース付



# HOPE